
雨と財布と女の子

飴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨と財布と女の子

【ZPDF】

Z9235M

【作者名】

飴

【あらすじ】

財布を落としたくせに日々している一日

「くそつーくそつーなんでないんだよーーー」

大雨の中必死に駆け回ったが俺の財布はどこにも落ちていない。
無論会社の中、通った道中は全て何回も探した。

「もう、ダメかもしけねーな」

全身ずぶ濡れになりながら探したが、一向に見つからなかつた。
「くそ忙しい時についつも嫌な事が起こりやがるな・・・。とりあえず
警察に届け出を出すか」

近場の交番のドアを開けると「びびりました！？」と驚いた顔で
全身ずぶ濡れの理由を聞かれた。

「では、紛失届を書いていただきます。それと、これでちょっと拭
いたほうがいいですよ」

意外にもその警察官は優しくしてくれた。こいつは時のちょっと
した親切は心に染みるものだ。

紛失届を書いていると、突然背後のドアが開いた。

「あ、あのーこれ落ちてたんですけど」

振り返ると、びしょ濡れの女の子が一人、財布を持っていた。

まさか

確認させてもらつと、まさしくおれの財布だつた。

25歳前後に見えるその女の子は、にっこり微笑んで「よかつた
ですね」と言つてくれた。

「ありがとうーもう半分諦めていたところだつたよ」

しかも女の子は俺のタイプにばつちり当てはまつていた。

その場で遠慮する彼女に財布の中身の1割を受け渡し、帰ること
にした。

「あの、もし何かあつたら困るので、連絡先の交換しませんか？」

まさか女の子のほうからこんな嬉しい事を言つてくれるとは思つ

てもいなかつた。くそ惡々しい事の連續だつたが、終わりよければ
全て良し・・・だな。

(後書き)

半ノンフィクションです（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9235m/>

雨と財布と女の子

2010年10月15日23時45分発行